令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　港区

学 校 名　大阪市立南市岡小学校

学校長名　木村　幹彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立南市岡小学校　第６学年　51名

学校名　大阪市立南市岡小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語に関しては、大阪市の平均点より４ポイント下回り、算数に関しても、大阪市の平均点から４ポイント下回っている。理科に関しては、ほぼ大阪府の平均点と変わらず、全体的に学力の底上げを図っていくことが課題となる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］国語に関しては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「言語文化に関する事項」で正答率７０％を超え、さらなる向上を目指す。逆に、「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」に関しては、正答率５０％台であるため、情報の整理や言語力向上に力を入れる必要がある。
［算数］算数に関しては、「データの活用」で大阪市平均とほぼ同等の正答率を示し、「図形や測定」に関しては、正答率４０％台であった。面積・体積や長さに関する学力の向上に力を入れる必要がある。
［理科］理科に関しては、「エネルギーの領域」や「粒子の領域」で大阪市平均を超えており、他の領域でもほぼ大阪市平均と同等の正答率であった。引き続き、理科的な現象に理解度を深め、学力向上に努めていく。

質問調査より

「自分にはよいところがある」「将来の夢や自信をもっていますか」と回答した児童が、8割を超え、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目に至っては、100％の児童が肯定的な回答をした。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の回答では、97％の児童が肯定的に回答し、自尊感情や自己肯定感が育まれている様子が伺える。言語活動に関する質問として、「読書が好きですか」に関する回答が大阪市平均69％のところ、本校では97％であった。学校図書館活動を通して、読書する習慣や、読解力、言語能力の向上の成果が出ていると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、引き続き大阪市学力向上推進事業を活用しながら、自分の考えを表現できる子どもの育成を中心に、基礎学力の向上や言語活動の充実を図っていく。
算数科においては、児童の理解度や実態に応じた指導法を展開していく。特に40点未満の下位層の児童については、よりきめ細かな指導や放課後学習での補充を進め、誰一人取り残さない学力の向上に努める。
理科においては、今後も引き続き、観察や実験を通して事象を捉える活動を多く取り入れ、自然現象や理科的な考えを育めるよう努めていく。